

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成24年度委託事業完了報告書
【推進地域】

道府県名	山口県	番号	18
------	-----	----	----

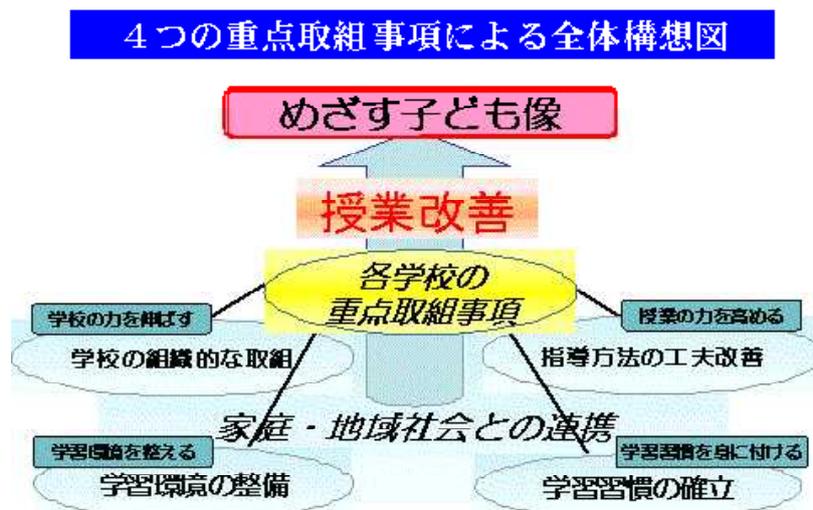
推進地区名	推進校名	研究主題
周南市	周南市立周陽小学校	I・II・III型
宇部市	宇部市立神原中学校	I・II・VI型
下関市	下関市立豊東小学校	I・II・IV型
下関市	下関市立玄洋中学校	I・II・IV型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 推進計画の策定について

『チーム山口』で授業改善、「日々の授業における言語活動の充実」、「自ら計画して取り組む学習習慣の形成」を重点課題とし、新学習指導要領の趣旨を踏まえた上で、全県的な児童生徒の学力向上に向けて、4つの重点取組事項を中心とした推進のための全体構想を策定した。



また、この4つの重点取組事項による授業改善を全県的に推進するため、以下のリーフレットを作成し、県内の全小・中学校教員に配付することによって、授業改善に向けた取組を市町教育委員会と一体となって県内全域で進めてきた。



(資料の詳細は、<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/jugyokaizen/20120919001.html>)

(2) 取組概要について

時期	推進地域における取組	推進地区・推進校等における取組
4月	○調査研究計画の確認	○H23までの課題解決に基づく取組
5月	○「やまぐち学習支援プログラム」活用研究協議会の開催 4つの重点取組事項の確認	○各地区の実態に応じた取組の推進
6月	○県市町学力向上担当者会議の開催 4つの重点取組事項の徹底	○推進校のテーマに基づく取組の推進
7月	○リーフレット「学力向上に向けた授業改善のために」配付 4つの重点取組事項に基づく実践 ○「やまぐち学習支援プログラム」評価問題、基本問題、教材の活用促進	○推進地区教委による継続的な支援
8月	8/28 周南市立周陽小学校訪問	
9月		○調査研究の中間まとめ
10月	10/10 宇部市立神原中学校訪問	
11月		☆周陽小学校授業公開
12月	○「やまぐち学習支援プログラム」学力定着状況確認問題の実施	

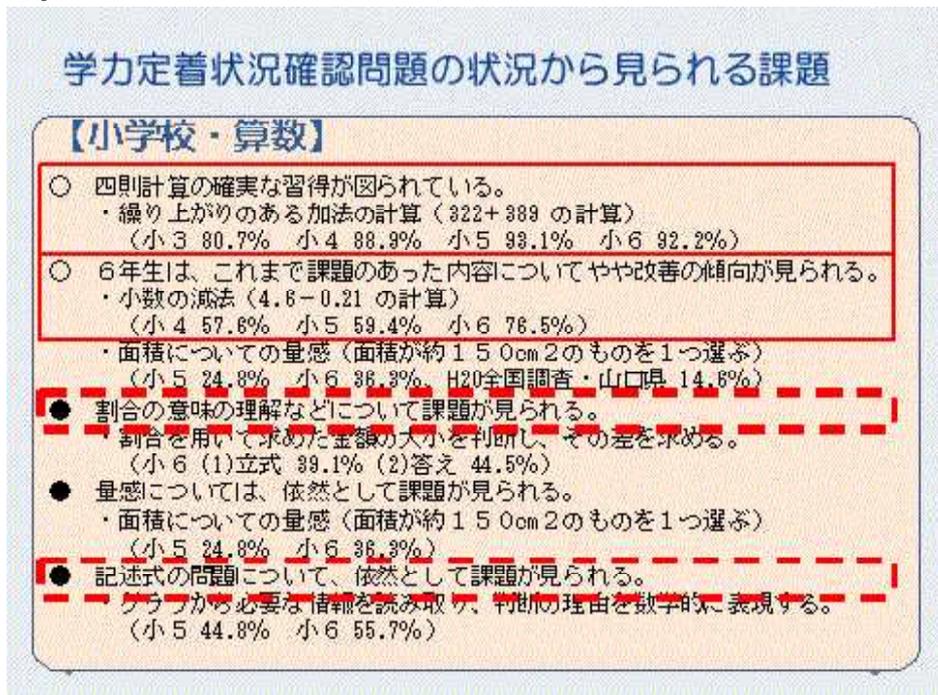
1月	1/22 下関市立豊東小学校訪問	☆豊東小学校授業公開
2月	2/7 下関市立玄洋中学校訪問	☆玄洋中学校授業公開 ☆神原中学校授業公開
	○ 2/22 成果報告会の開催	○ 調査研究のまとめ
3月	「やまぐちっ子学力向上だより」での各校取組紹介	
	○ 研究のまとめ作成 ○ 各学校の取組状況のWEB公開	○ 研究のまとめ作成

2. 調査研究の成果の把握・検証

(1) 推進地域の取組の成果

これまで4つの重点取組事項に基づく授業改善による児童生徒の学力向上に向けた取組の推進を図ってきたが、県内全域の学校においてその取組が図られており、改善傾向にあることが見てとれる。

右の図は、平成24年12月に小学校3年生から中学校2年生までを対象として実施した「やまぐち学習支援プログラム」学力定着状況確認問題の全県の結果から見られる小学校・算数の成果と課題をまとめたものであるが、小学校6年生においては、4月に実施した全国学力・学習状況調査で課題に見られた問題について、正答率が向上している様子が伺える。

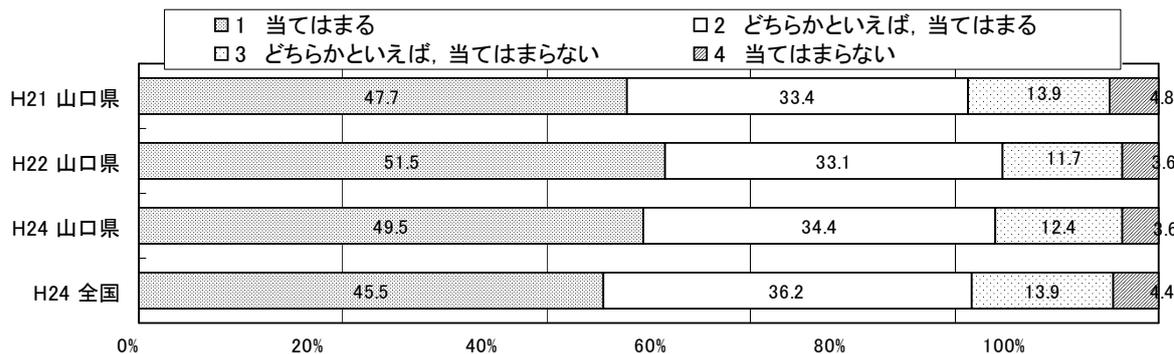


また、他の学年においても、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られている様子が伺える。

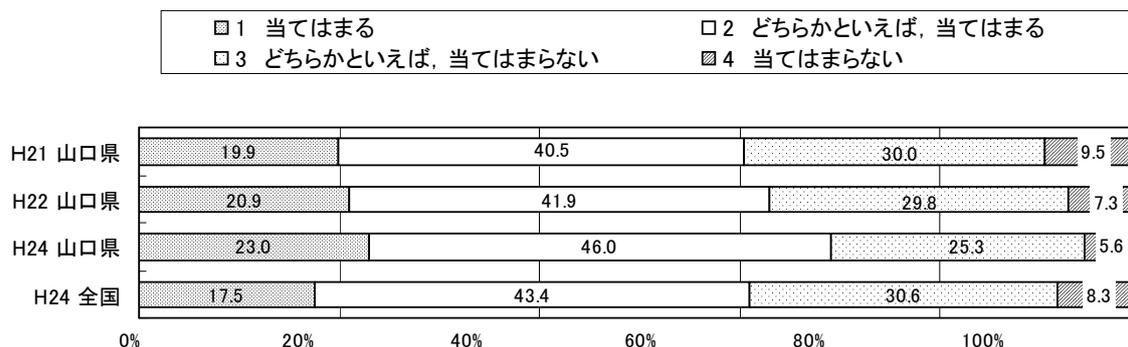
次に、重点課題である「日々の授業における言語活動の充実」と「自ら計画して取り組む学習習慣の形成」について見ると、平成24年度全国学力・学習状況調査の結果では、小学校・中学校とも、例えば、「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」、「家で自分で計画を立てて勉強している」といった質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は年々増加している（次ページ参照）。これは、昨年度までの取組の一定の成果であると捉えることができるが、今年度は、全県的に「言語

活動の充実」が課題として見られる。これは、昨年度までの取組の一定の成果であると捉えることができるが、今年度は、全県的に「言語

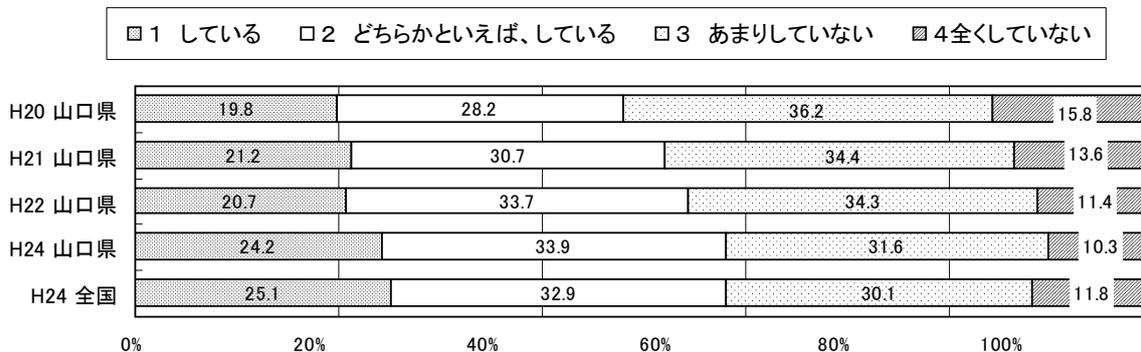
【小学校】 (41) 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う



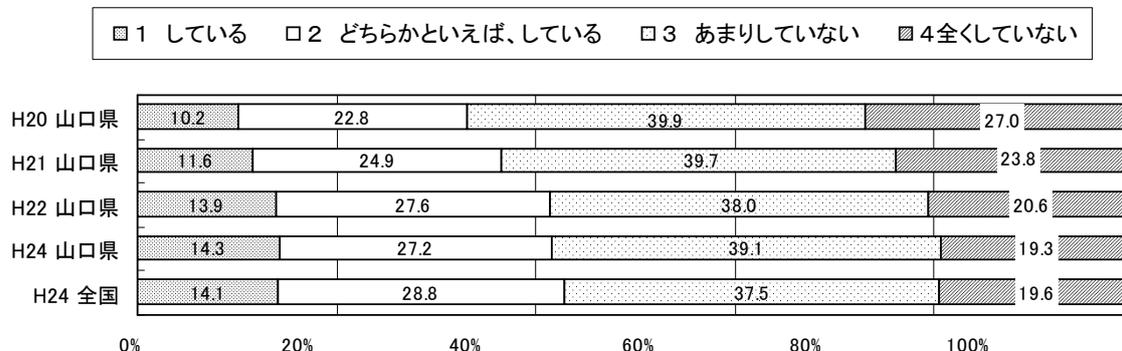
【中学校】 (42) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う



【小学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしている



【中学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしている



活動の充実による授業改善」や「家庭学習の充実」の推進を一層図っており、今後のさらなる改善が期待できる。

(2) 推進地区・推進校の成果の検証

各推進校では、推進地域（山口県）の重点課題に沿って研究の焦点化を図ることにより、他校のモデルとなる先進的な調査研究が実施された。焦点化された主な研究内容は以下の通りである。

周南市立周陽小学校	「単元を貫く言語活動の充実（主として国語科）」
宇部市立神原中学校	「『学び合い』のある授業を基軸とした授業改善の推進」
下関市立豊東小学校	「かかわり合いのある授業づくり」
下関市立玄洋中学校	「授業改善、基礎・基本の定着、学びの基盤づくりなど 全校体制による学力向上の推進」

また、全ての推進校において、近隣若しくは県内の学校関係者等を招いての授業公開を開催しており、それぞれの推進地区への成果の普及を図った。

3. 今後の課題

本県では、2年間に渡って「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」の推進地域としての指定を受け、全県的に「新学習指導要領の趣旨の徹底」及び「学力向上に向けた取組の推進」を図ってきた。前述したように、取組の一定の成果は見られているものの、多くの課題も抱えており、次年度以降にその改善を図るため一層の取組を推進する必要がある。

(1) 学校における学力定着状況のきめ細かな把握、課題の明確化による検証改善サイクルの確立

児童生徒の客観的な学力定着状況のきめ細かな把握を行うとともに、学校の課題を明確にし改善に生かすことが必要である。4月の全国学力・学習状況調査と合わせて、課題を明確にし、指導の工夫改善等の取組の充実を図る検証改善サイクルを各学校で確立していくことが大切である。

(2) 教員の指導力向上に向けた研修機会の充実

これまでの学力調査等の結果の検証を踏まえて、課題改善に向けた教員の指導力の一層の向上が必要である。今後、県内すべての学校を参加対象とした各教科の研究協議会、授業づくり研修会等を開催し、教員の指導力の底上げを図っていきたい。

(3) 小・中連携による学習指導の一層の充実や学習習慣の確立

これまでの調査結果等から、小学生段階での課題が中学生になっても十分改善が図られていないといった課題が挙げられている。また、学習習慣の確立などにも依然として課題がある。そこで、小・中連携を一層推進することによって、学習内容等の相互理解に基づく学習指導の一層の充実を図るとともに、学習への意欲を向上させる授業規律の在り方や、基礎的・基本的な内容の一層の定着を図るための家庭学習の習慣化に向けた9年間一貫した取組の推進を目指したい。